

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

真庭市教育委員会

1 調査の実施状況

(1) 調査の目的

子どもの体力が低下している状況にかんがみ、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査対象学年

小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年、義務教育学校前期課程第5学年

中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年、義務教育学校後期課程第2学年

(3) 調査内容

ア 実技に関する調査（新体力テスト8種目で実施）

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び
ボール投げ（小学校はソフトボール、中学校はハンドボール）

イ 質問紙調査

児童生徒：運動習慣、体育授業等の項目

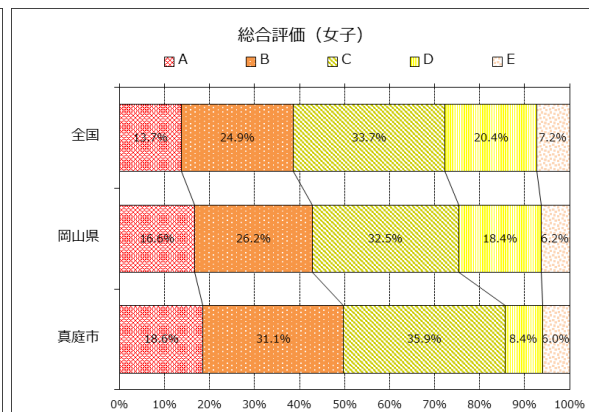
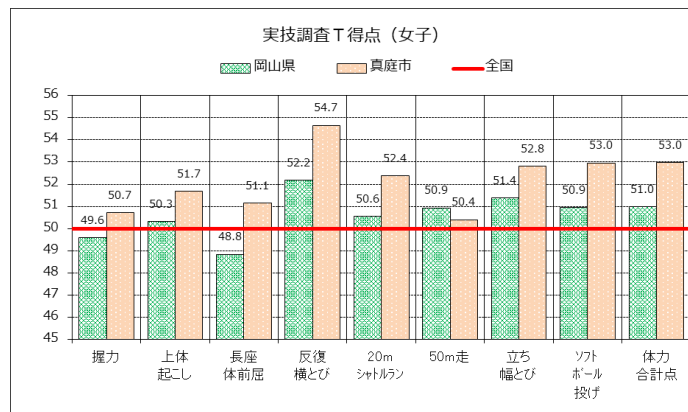
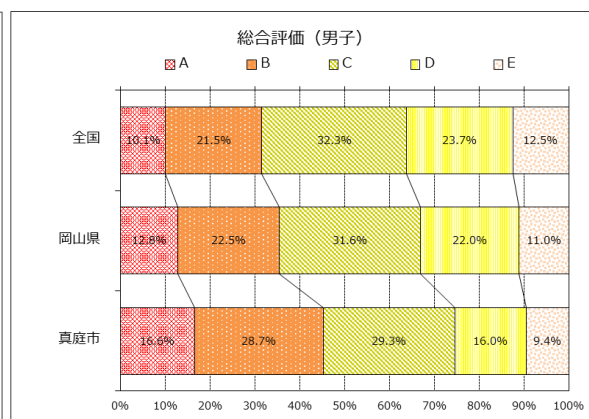
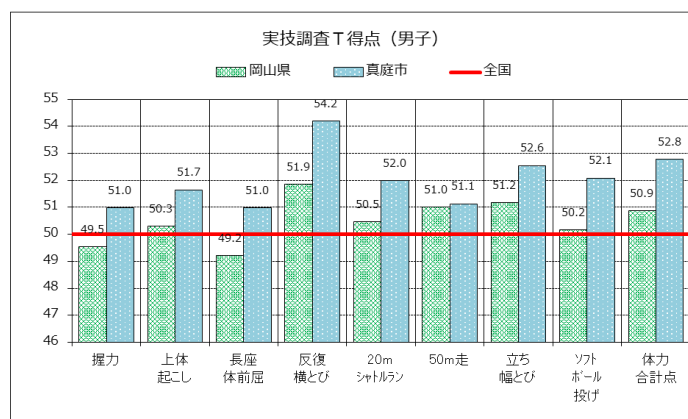
学 校：子どもの体力向上に係る取組等に関する項目

2 実技集計

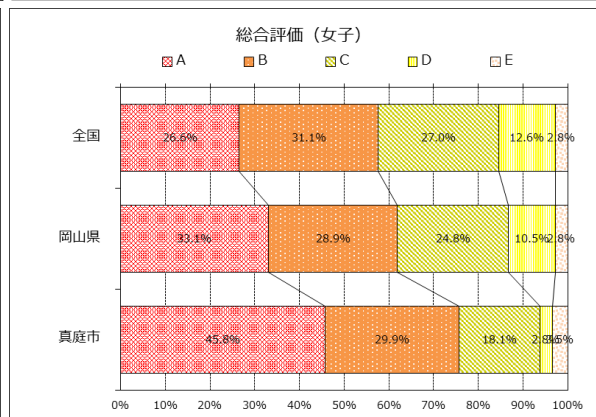
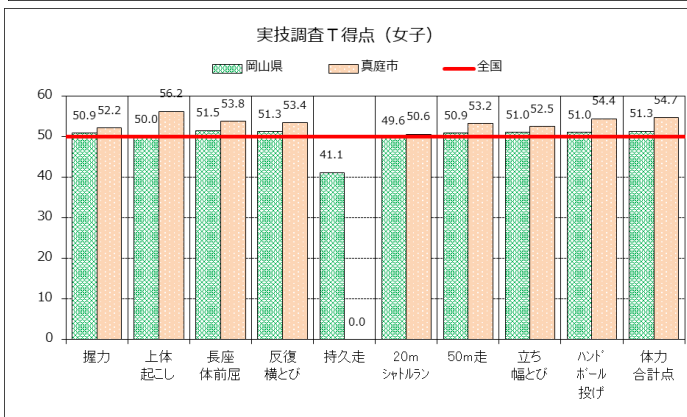
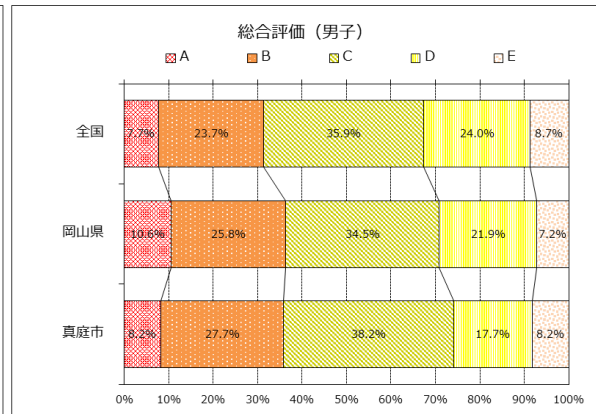
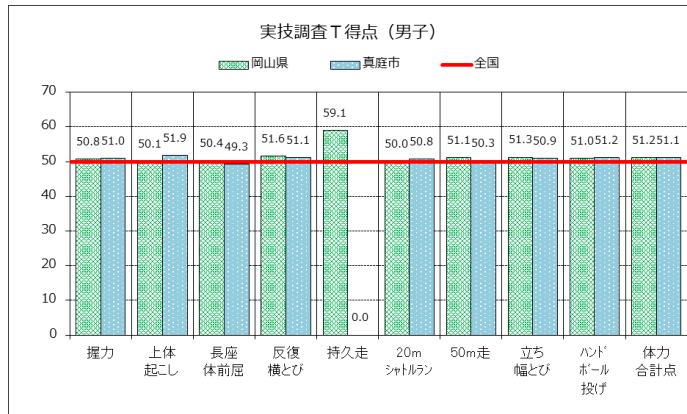
(1) 令和3年度実技調査T得点（全国平均を50とした時の真庭市児童生徒の得点と総合評価）

※岡山県は、岡山市を除いた値（H29から国が公表方法を変更）

【小学校】

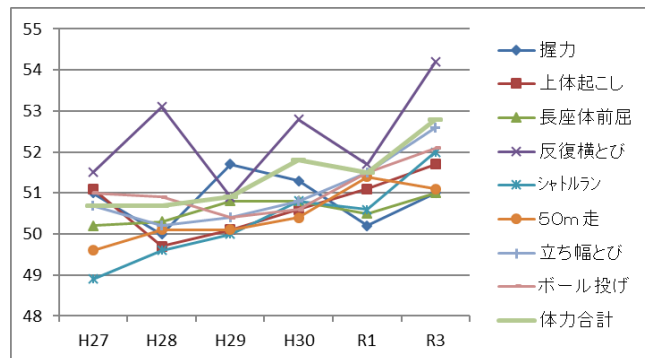


【中学校】（持久走と 20m シャトルランは選択となっており、真庭市は 20m シャトルランを実施）

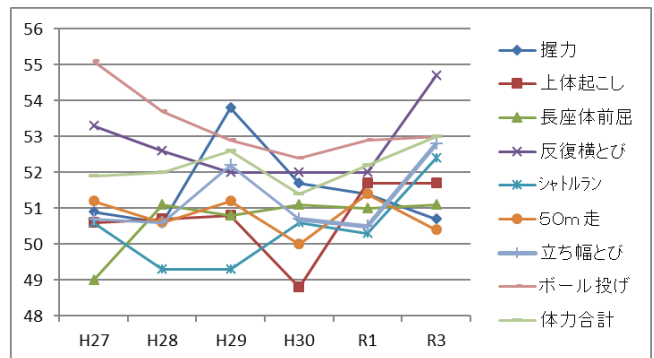


（２）実技調査T得点の経年変化（全国平均を 50 としたときの、真庭市の実技得点の経年変化）

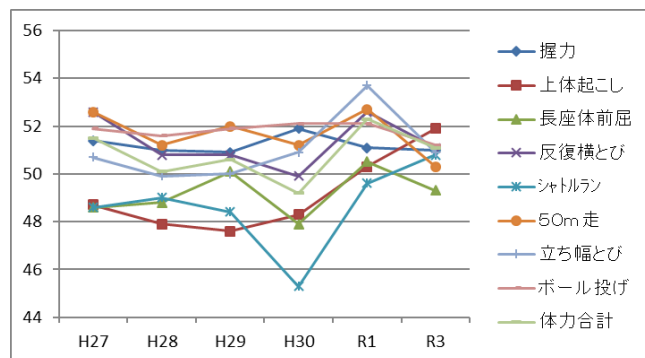
【小学校男子】



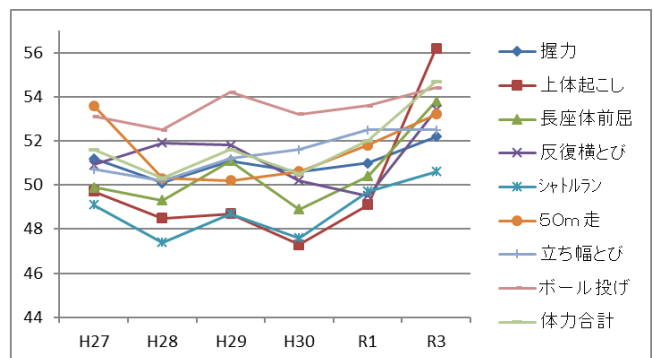
【小学校女子】



【中学校男子】

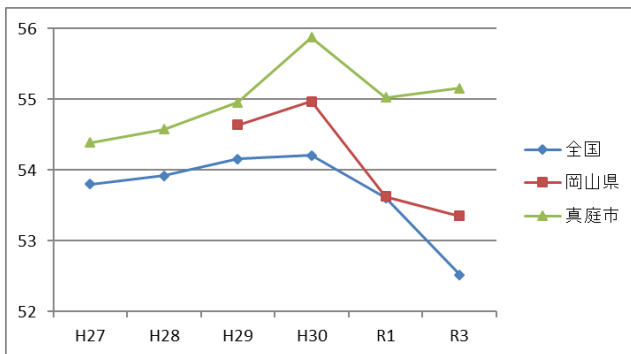


【中学校女子】

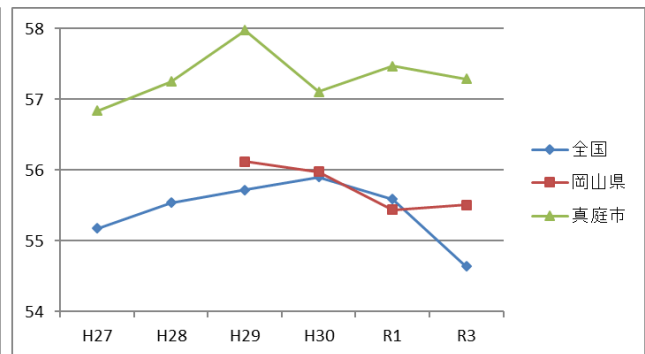


(3) 体力合計得点の年次推移

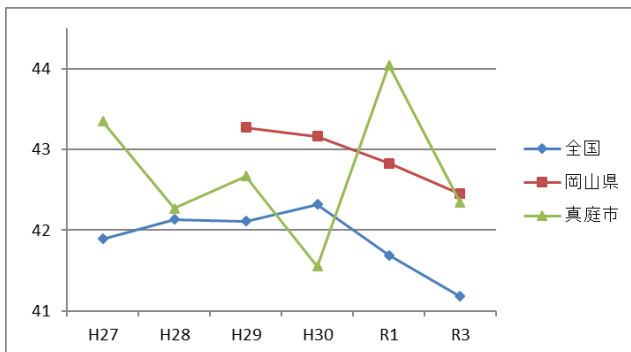
【小学校男子】



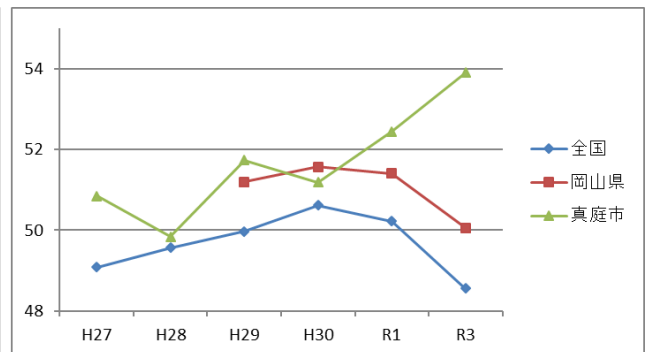
【小学校女子】



【中学校男子】



【中学校女子】

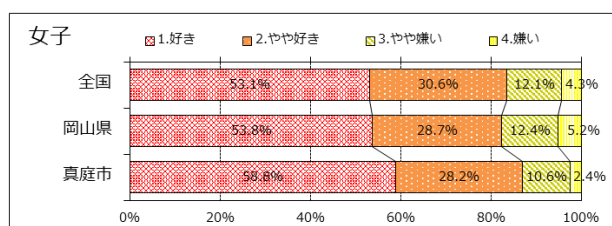
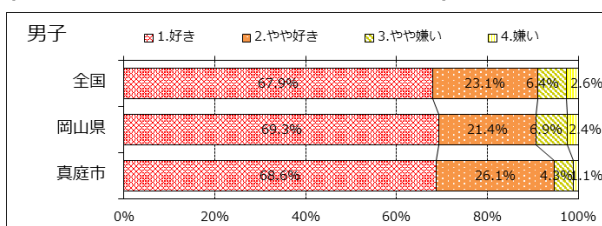


小学校では、全ての種目で全国平均を上回っています。中学校でも、全国平均を上回る種目が多くなっていますが、男子は、長座体前屈で全国平均を下回っています。体力合計得点では、小学校、中学校とも全国平均値を上回っています。経年変化から、年度によって差はあるものの、真庭市の児童生徒の体力は全国と比べて高い状態にあるといえます。

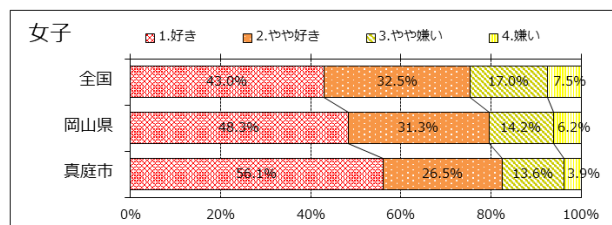
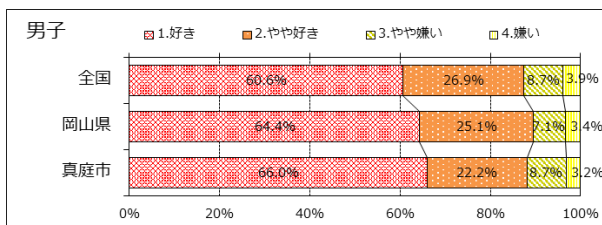
3 児童生徒質問紙

(1) 運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。

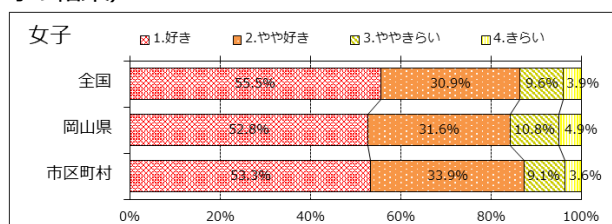
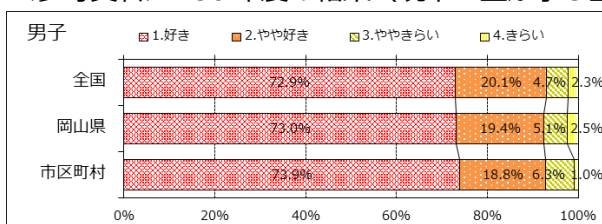
小学校



中学校



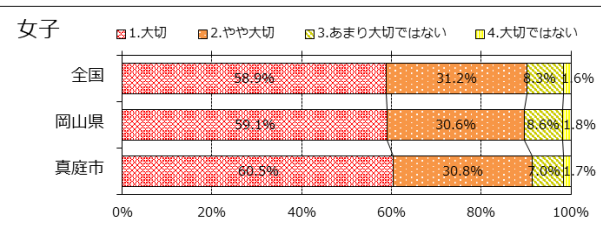
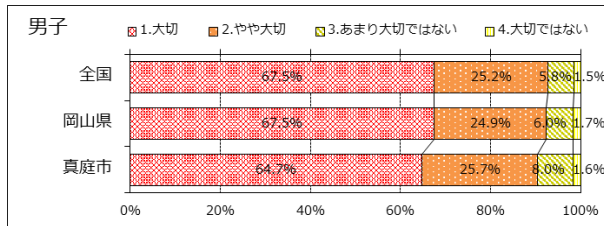
<参考資料> H30 年度の結果（現中2生が小5生時の結果）



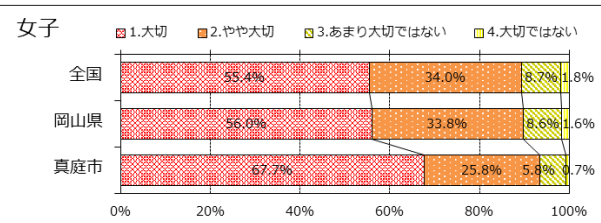
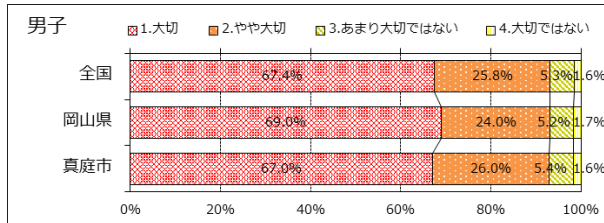
小・中学校とも、肯定的（好き・やや好き）な回答の割合が全国平均と比べ高くなっています。現中学2年生については、小学校5年生の時の結果と比較すると、肯定的な回答の割合がやや低くなっています。

（2）あなたにとって運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツは大切なものですか。

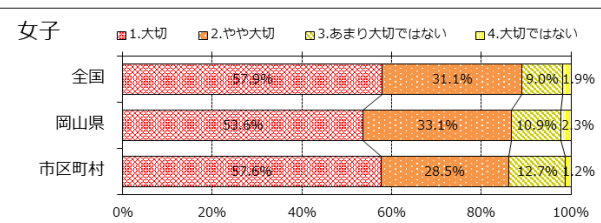
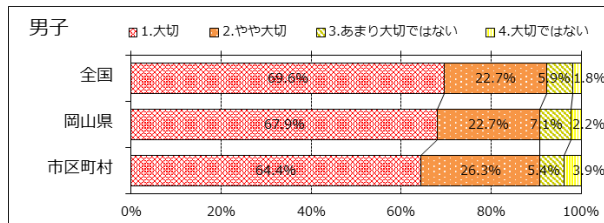
小学校



中学校



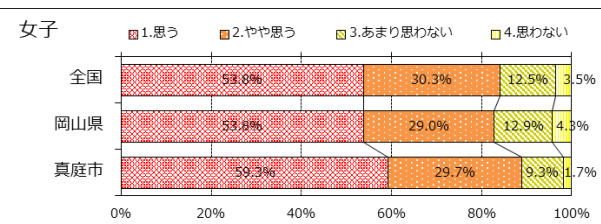
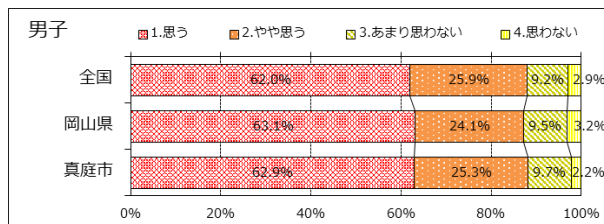
<参考資料> H30 年度の結果（現中2生が小5生時の結果）



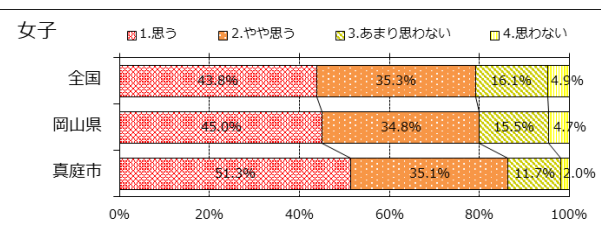
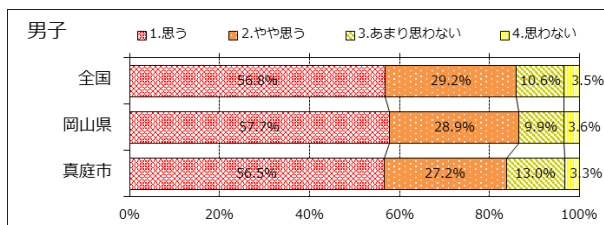
小・中学校ともに、肯定的（大切・やや大切）な回答の割合が、全国平均に比べて高くなっています。現中学2年生については、小学校5年生の時の結果と比較すると、肯定的な回答の割合がやや高くなっています。

（3）中学校に進んだら授業以外に（小）、中学校を卒業した後に（中）自主的に運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。

小学校



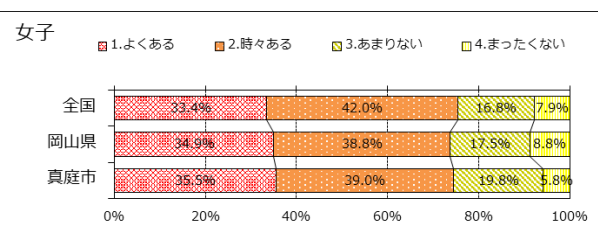
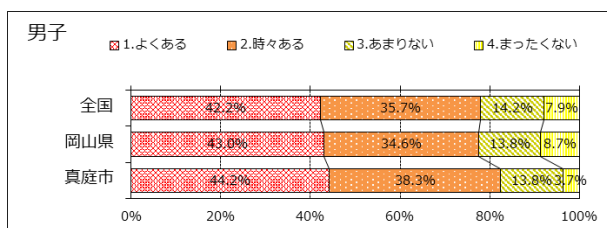
中学校



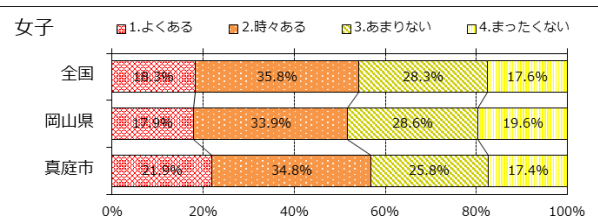
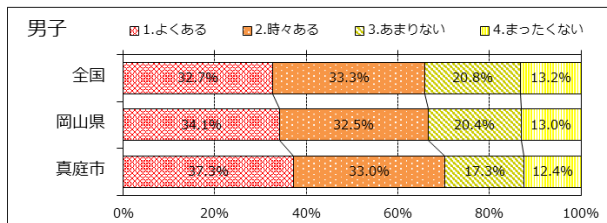
自主的に運動やスポーツをしようと考えている児童生徒の割合は、中学校男子で全国平均をやや下回っていますが、小学校男子及び小・中学校女子で、全国平均よりも高くなっています。

(4) 放課後や学校が休みの日に、運動部（小）運動部活動（中）や地域のスポーツクラブ以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることがありますか。

小学校



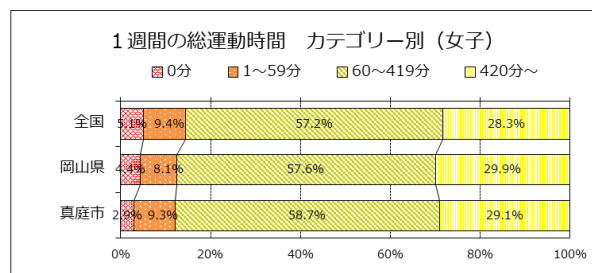
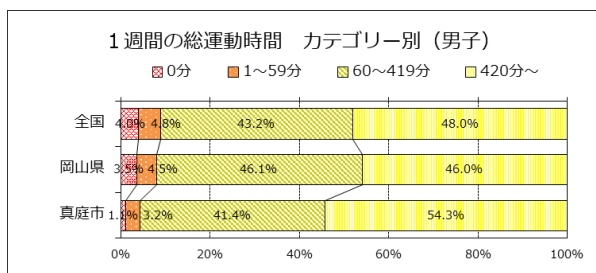
中学校



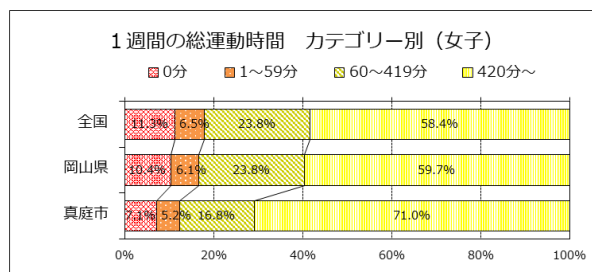
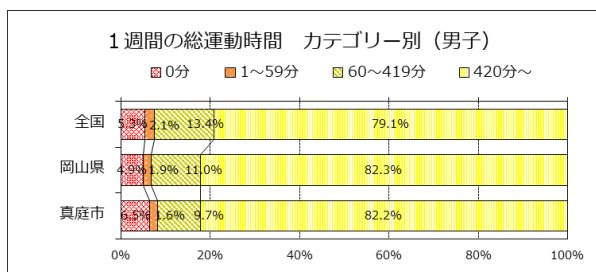
小・中学校ともに、運動部やスポーツクラブ以外で、運動やスポーツをする割合が、全国平均よりも高くなっています。

(5) 1 週間の総運動時間

小学校



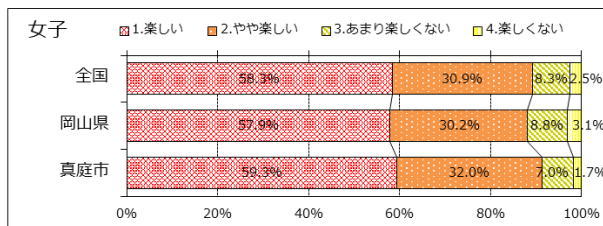
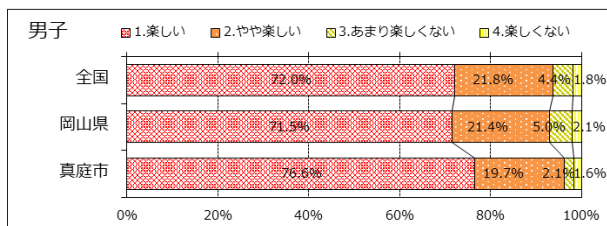
中学校



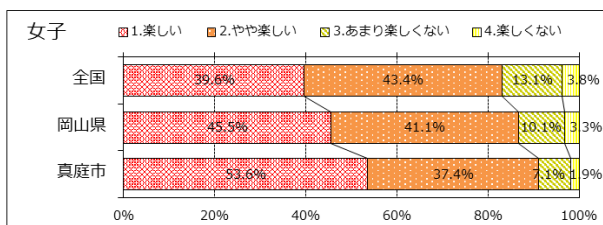
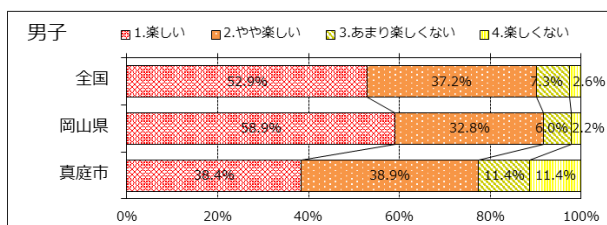
小・中学校ともに、1 週間の総運動時間は、1 時間未満の児童生徒の割合が低く、7 時間以上の割合が高くなっています。中学校男子では、全く運動をしない生徒の割合が、全国平均よりやや高くなっています。

(6) 体育（保健体育）の授業は楽しいですか。

小学校

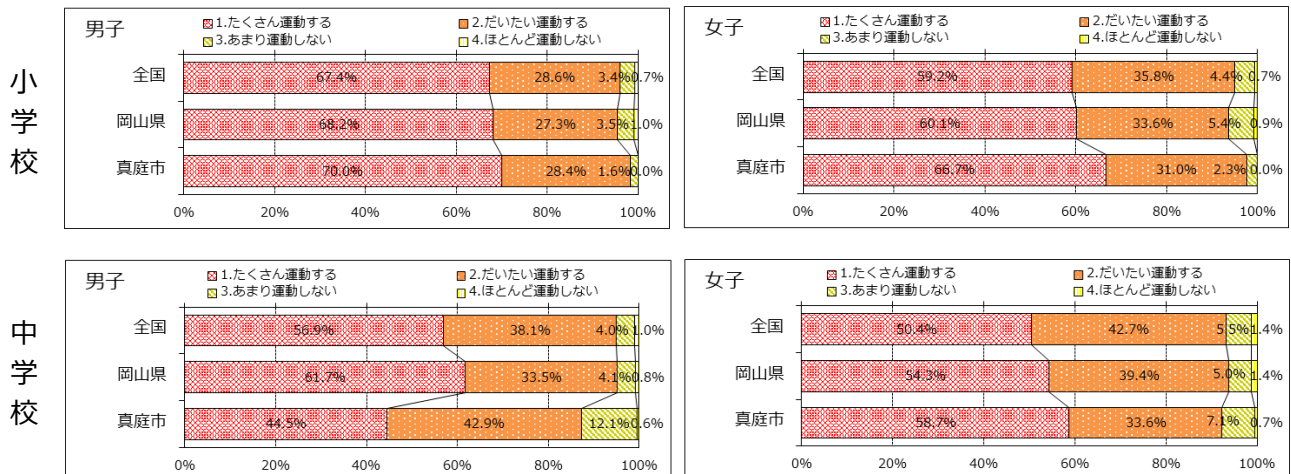


中学校



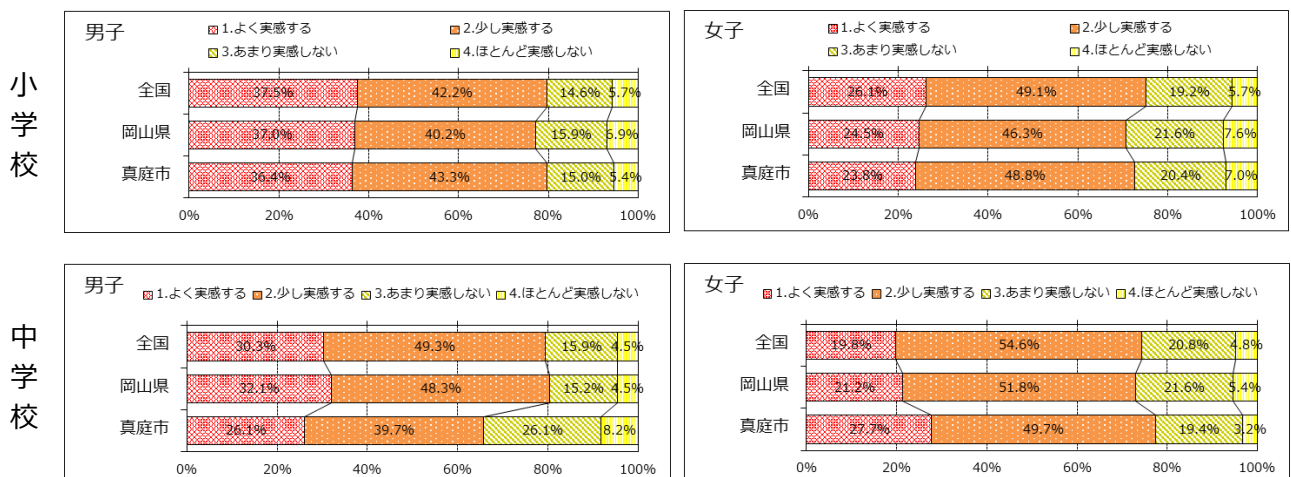
小学校男子及び小・中学校女子で、肯定的（楽しい・やや楽しい）な回答の割合が全国平均より高くなっています。中学校男子では、肯定的な回答の割合が低くなっています。

（７）体育（保健体育）の授業では、たくさん動きますか。



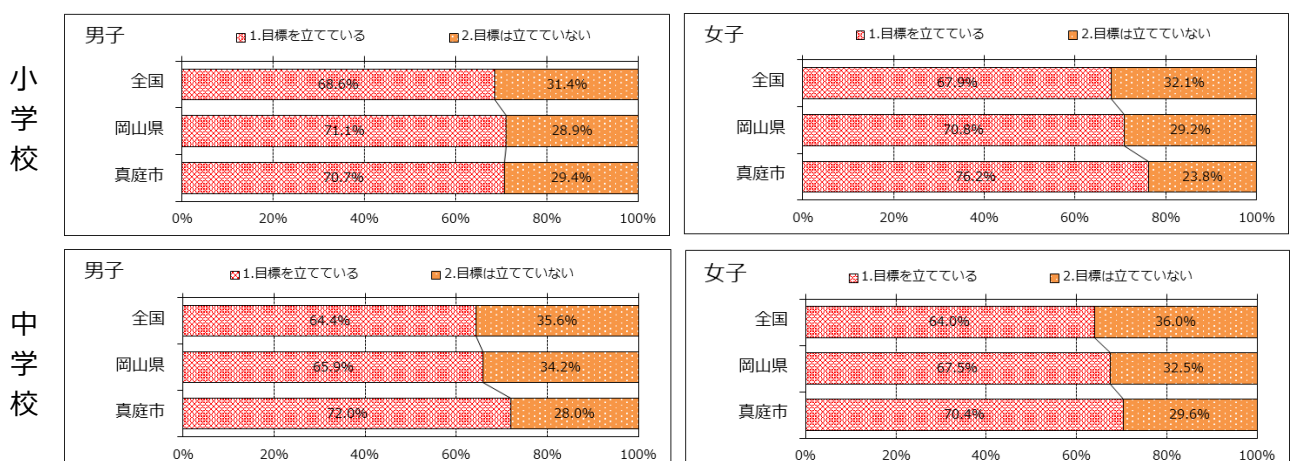
小学校男子及び小・中学校女子で、肯定的（たくさん運動する・だいたい運動する）な回答の割合が全国平均より高くなっています。中学校男子では、肯定的な回答の割合が低くなっています。

（８）保健体育の授業で、自分の動きの質が向上していることを実感することがありますか。



中学校女子では、肯定的（よく実感する・少し実感する）な回答の割合が全国平均より高くなっています。小・中学校男子及び小学校女子では、肯定的な回答の割合が低くなっています。

（９）体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていますか。



小・中学校ともに、目標を立てている児童の割合が、全国平均に比べて高くなっています。

4 調査結果を受けて

真庭市における「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、ほぼ全ての実技種目で全国平均を上回る結果となりました。これまで課題のあった種目も改善の方向にあります。課題としていた、「運動を持続する能力」も高まってきています。

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大防止に伴い、活動が制限される中でも、予防策を講じた上で、工夫して活動を維持していくことで、体力の低下を防ぐことができたと考えます。

今後、体力を維持したりさらに向上したりしていくためには、児童生徒が、体力の維持・向上に向けた「意欲」を高めていく必要があると考えています。

そのためには、活動を通じて、児童生徒が、「自律性」を実感する、「有能感」をもつ、「関係性」を感じる、この3つの感覚を促進していくことが不可欠であると考え、取組を推進しています。

「自律性」を実感するために

児童生徒に、自分で選択し自分の意志で取り組んでいるという実感をもたせ、管理、強制されていると感じさせないようにする。自分で目標を設定して活動に取り組むことができるようにする。

「有能感」をもつために

やり遂げることはできるが簡単すぎるわけではない課題（児童生徒の能力を少し超える課題）を設定し、取り組むことができるようにする。そして、取組後に自分の成長（動きができる、記録が伸びるなど）を実感することができるようにする。

「関係性」を感じるために

児童生徒が、他者に、自分自身の価値を認められ、尊重されていると感じることができるようにする。個人で練習するだけでなく、指導者や友達に教えてもらいながら一緒に練習する。

今回の調査結果を受け、これまで行ってきた取組の成果と課題を学校ごとに再度検証し、上記の3つの視点を踏まえ、活動の改善を図っていきます。

【学校での取組】※コロナの感染拡大状況に応じ、予防策を十分講じた上で実施していきます。

先に述べた3つの視点を大切にしながら、活動の「質」を高め「量」を確保していきます。

◇授業改善を継続していきます

- ・「めあて」と「ふりかえり」のある授業実践を通して、児童生徒の運動習慣の基盤を確立していきます。児童生徒一人一人が目標を持ち、目標達成に向けて進んで運動に取り組むことができるようにすること、そして、達成できたかどうか振り返り達成感を味わえるようにすることができるようにしていきます。
- ・体育の授業内における運動量を確保できるよう、授業を工夫していきます。

◇体育の授業以外における運動時間を確保します

- ・学校行事として体育集会等（マラソン、なわとび、球技など）を実施、休み時間を活用して全校遊び、全校マラソンなどを実施、県、市や各地域の体育行事への参加啓発など、各校の実態に応じた取組を継続していきます。

これらの取組については、すでに各学校の実態に応じて実施しています。現在実施している取組を継続したり、また改善しよりよい取組にしたりしながら、児童生徒の体力向上を図っていきます。

【ご家庭等へのお願い】

◇体力の現状について語り合ってください

- ・子どもたちと一緒に新体力テストの結果等を活用し、体力の現状について語り合ってください。そして、体力向上に向けた目標を設定したり、実際に運動をしたりしながら運動の習慣化を図っていただきたいと思います。

◇積極的に体を動かす機会をつくってください

- ・今日の社会では「時間」「空間」「仲間」の「3つの間」が減少しているといわれています。さらに、今後もコロナの感染拡大防止に伴い、活動が制限されることも予想されます。子どもたちを取り巻く環境の現状を把握していただき、コロナの感染予防策を講じた上で、体を動かす機会をつくっていただきたいと思います

5 おわりに

子どもたちのよりよい現在と未来のために、「確かな学力と豊かな心を備え、夢をもって自ら学ぶ子どもの育成」を真庭市のめざす学校教育として掲げています。そして、めざす子どもの姿に向けて、体力は基盤になると考えています。

真庭市が目指す教育の理念の下、取組を推進する中心は学校であります。学校だけでなく、社会全体で子どもの育ちを支えていくことが求められます。学校を地域社会の拠点として、本調査から明らかにした課題とともに、本稿で示している改善の方向性（特に「自律性」「有能感」「関係性」を実感できる取組）を共有し、すべての人の協力体制のもと、子どもたちを育んでいきたいと考えています。

市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願いします。